

第254回 令和8年6月19日（金）

「この速度で進化して大丈夫？」

シンギュラリティというワードはもはや日常語になりつつあります。AIが自分で主体的に成長して、人間を超える知性を身につける日のことで、2040年ごろと学者は予測していました。

AIは2026年には東京大学の問題をほぼ満点に近い成績で解くことができます。GeminiやChatGPTを利用していても、数年前とは隔世の感があります。スライドを作成できるNotebookLMなども生成AIに絵を描いてもらっていたころを思うと信じられない進歩ですよ。

この調子なら2040年を待たずしてシンギュラリティが訪れそうな気がします。正直言えば文章を作るのも、動画を作成するのもいまやAIに勝てるものが無くなりつつあるような気がします。

最近になって事務職がAIに奪われると言われるようになっていますが、それ以外にもコンビニのレジであるとか、私が良く行く本屋のお会計も自動化されています。人間のほとんどの仕事が奪われてしまう日もそう遠くないような気がします。

AIやロボットによる労働の代替について、仕事が奪われると思うのか、働かなくても生きていけると思うのか、考え方ひとつなのかもしれません。ただ私たちは動物園のチンパンジーを見て「仕事がなくてうらやましい」とはあまり思いません。

AIから見れば人間という存在は自分たちより知性が劣っていて、動物園で暮らすチンパンジーやゴリラと同じように見えるのかもしれませんが、もしAIが自分で意志を持てるようになれば、人間という種自体に必要性を感じないかもしれません。

ダンスやマラソンで世界記録を出すロボットの映像が流れているのを目にしますが、数年たつと「前はこれしかできなかったのだ」と時代の流れを感じるようになってしまうのではないのでしょうか。いままでは20年、30年前の映像を見て懐かしさを覚えたものが、数年前の技術でさえ古臭く思えてしまいます。

世界はこれからどうなってしまうのか、本当に予測が付きません。人間の進化には限界がありますがAIの進化は指数関数的な速さで進んでいきます。

どこかで立ち止まって「このまま進んでもいいのか」検証する時間が必要なのではないか、そのうち取り返しがつかなくなるのではないか、とあってしまいます。